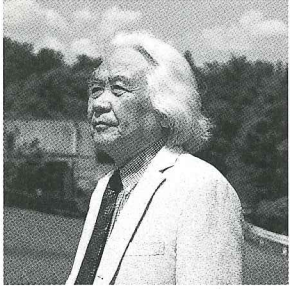


## Aichi Geidai News

発行日 平成21年9月15日  
 編集 愛知県立芸術大学広報委員会  
 発行 愛知県立芸術大学事務局芸術情報課  
 愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-114  
 TEL 0561-62-1180 FAX 0561-62-0083  
 Home Page <http://www.aichi-fam-u.ac.jp/>



愛知県立芸術大学学長  
磯見輝夫

## 学長挨拶

昨年七月に発足しました愛知県立芸術大学を支援する会、愛芸アシストも1年を迎えます。清水理事長の熱意と周囲の方々のご協力があって、会員の数も順調に増えてまいりました。これからは入会して頂いた皆さんに大学がどう応えて行くかが課題となります。これまで入会して頂いた会員の方が継続して応援して下さい、また新規の会員を集めることができるか、それは大学が魅力あるものになるかどうかにかかっています。

私はこの愛芸アシストを単に大学を支援してもらうためだけの組織にたくないと考えています。この会を芸術が楽しめる豊かな場にしたいと思っています。愛知県立芸術大学の活動に賛同して会員になられた皆さんですから、大学の活動を通して芸術がより身近なものになり、楽しいものとして享受できなければならないと思います。その為には会員と大学の距離を縮める企てが必要です。これからその企てを考えていきたいと思っています。

法人化三年目となり、これまで開催されてきたサテライト講座、アーティスト・イン・レジデンス、海外の大学との交流提携等、継続的に行われる活動と共に、新たな展開も必要です。来年はあいちトリエンナーレが開かれますが、県からの要請である学生の海外作家の制作の手伝い、コンクールへの参加に留まらず、県内で行われる自主的な大学の活動を積極的にトリエンナーレに結びつけていくことを考えたいと思います。大学独自に愛知トリエンナーレを少しでも盛り上げられたら、これも大学の活動の成果となるでしょう。各種演奏会、展覧会、四芸祭、海外交流、サテライトギャラリー等をトリエンナーレと結び付けて考えてみる、検討する価値はありそうです。

来年は大学の認証評価を筆頭に、あいちトリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭、万博継承事業等、いろいろなことに関わる大変な年になりそうです。こうなったら、これから出会う様々な出来ごとを楽しみに、今年のうちから覚悟を決めておきましょう。



愛知県立芸術大学法人理事  
金田礼市

## 法人化3年目にあたって

県立の大学が法人化され3年目を迎えました。この2年間、各大学の先生方や事務の皆様のご協力をいただき、順調に法人化のスタートを切ることができました。皆様方のご協力を改めて感謝申し上げます。

芸術大学では、法人化を契機にさまざまな新しい取り組みが始まりました。

愛知芸術文化センターを会場にしたサテライト講座や国内外で活躍している芸術家を芸大に招いて制作やレッスンをしていただくアーティスト・イン・レジデンス事業は、今年で三年目を迎えました。この5月に実施した「ケルンの風」では、ケルン音楽大学からカンギーサー教授と若き演奏家を招いて演奏会や公開レッスンを行い、学内に新鮮な刺激を与えました。

2月にはイギリスのエディンバラ芸術大学と交流協定を締結するなど、国際交流事業も順調に進展しております。

また、地元、長久手町文化の家で毎年開催しているオペラ公演も10年目を迎え、今年は大府市での開催も計画されているなど、近隣の市町村や企業との連携のもとで大学の教育研究の成果を社会に還元する、地域貢献活動にも積極的に取り組んでいただいております。

昨年7月には、芸大の活動を支援する「愛芸アシスト」が設立され、地域に愛される大学を目指した活動がますます活発に展開されるものと期待しております。

長年の懸案であった芸術大学のキャンパス整備がいよいよ動き出します。昨今の厳しい経済状況にもかかわらず、平成21年度の県の当初予算に音楽学部棟の基本設計費が計上され、整備事業がスタートすることになりました。これからも県と連携しながら、音楽学部棟を手始めにキャンパスの整備ができるだけ早く進め、質の高い教育研究活動を展開するための環境整備に一層努力してまいります。

また、昨年度から事業を進めています学生寮の改築は、今年度末の入居に向けて、6月中に契約を締結し、着工の運びになりました。

平成22年度の大学認証評価機関の評価をはじめ、取り組むべき課題は多々ありますが、法人化のメリットを生かし、自主・自律的な大学運営を実現するため、法人本部事務局としても、大学事務局と連携を深め、県立の大学の発展のために一層の努力をしてまいりたいと考えております。

大学の永年の目標でありました研究科博士後期課程が平成21年4月1日より設置されました。この設置に伴って修士課程は博士前期課程となりました。

組織は、大学院研究科一専攻の中に、博士後期課程が乗る形になりますが、大学設置からの視点では、今までの修士課程を改組して博士前期、博士後期課程となりました。そして、博士後期課程の指導に当たっては、博士後期課程委員会が組織され、この委員会がすべての研究指導を行うこととなります。

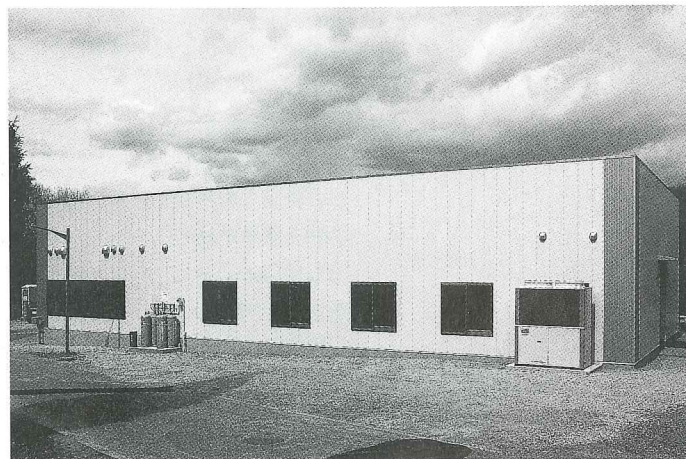
博士後期課程の専用施設は、音楽研究科後期課程として音楽修士棟の隣りに、高性能な録音室とレッスン室、論文執筆室のある音楽博士棟。美術博士棟は芸術学棟の奥に多目的映像スタジオとアトリエ、論文執筆室のある施設です。

大学としては永年の懸案でありました博士課程の設置が実現し、やっと芸術大学として完成したと言って過言ではありません。近年、芸術教育の高度化が提唱され、文科省においてもその指針で示されてきました。芸術系大学の教員公募の際にも、博士号取得を明記する大学が急増しています。この環境の中で我が校もやっと間に合った感がありますが、これから完成年度の24年3月までの3年間がその成果を問われることとなります。また博士課程の院生だけでなく、教育研究指導に当たる教員もその資質を問われます。

やっとスタートです。



美術博士棟



音楽博士棟

## 自治会本格的スタート

自治会代表 デザイン専攻4年  
大井佳名子

私たち自治会は19年度から発足した自治会準備委員会を改め、昨年より『自治会』として本格的な活動のスタートを切りました。

実質的な発足から1年を迎え、科や専攻を超えたメンバーで大学全体に働きかける取り組みを行ってきました。各専攻代表の集まる会議を定期的に行い、春から夏にかけては生協購買部の営業時間延長に向けての署名活動、また夏から秋にかけては「大学生活に関するアンケート」と題した意識調査を行い、学生が普段の学校生活で感じていることや疑問点、改善してほしい点などについての意見を仰ぎ、学校側へ伝える役割を果たしました。

前述の購買部の営業時間につきましては、校時の変更に伴い終業時間に生協購買部の利用がしたいという多数の意見から各専攻に署名を募り、試験的に営業時間を延長していただくことになりました。「大学生活に関するアンケート」につきましては、昨年度末に学務課側に結果を提出しており、直接回答を得ることができました。今後、双方の意見を冊子にまとめ、配布・発表する予定です。

さて、特に今後は、自治会の存在が学校側と学生側、双方の意見が交換できる唯一の窓口になると考えております。発足後間もないということでもまだまだ自治会の認識は薄いですが、今後とも積極的な活動を通して、皆様に必要とされるよう頑張っていきたいと考えております。また、音楽学部・美術学部共に、全専攻の情報が一同に交換できる貴重な機会にもなっておりますので、新年度からは今までの活動を踏まえた、さらなる自治会のあり方の可能性について探っていきたいと考えております。

今後とも宜しく願い申し上げます。

芸術創造センターは今年で設立三年目を迎えました。センターの任務は、開かれた大学を目指し、愛知芸大の知的資源を活かして大学の意義を外部に正しく知らしめること、それによって大学の教育研究の充実と活性化を計ることにあるといえます。内容的には、地域貢献、国際交流を中心に事業を展開しています。

地域貢献としては、三年目を迎える愛知芸術文化センターで行なわれている『芸大サテライト講座』(30講座)を開催します。今年度も地域の方々に愛知芸大のバラエティーに富んだ内容を紹介していきます。一昨年度が974名、昨年度が829名、二年間で1,803名の人々が聴講していただいたことになり、大きな成果をあげています。

また、全国初の試みである、フルハイビジョンレベルの高精細画像を使っの遠隔講義が本学と愛知県立岩倉総合高校とを直接光回線で接続のうえ実施され、愛知県教育委員会から高大連携事業の成功事例として高く評価されました。

また、昨年に引き続き『ながくてアート・フェスティバル』(ながくてアート・フェスティバル実行委員会)への協力・参加を行ない、アート・フェスティバルの一翼を担いました。学生たちの積極的な参加もあり、交流を通じ地元住民との友好関係が深まっています。

そのほか、外部の団体からの依頼により、病院でロビーコンサートを開催したり、自治体等に協力して式典で演奏を行うなど、地域に根ざした活動を展開しています。

国際交流では、海外の芸術大学などからアーティストを招聘する『アーティスト・イン・レジデンス』事業をきっかけとして、そこから派生した教員や学生の交流が行なわれています。その成果として、本年2月に英国のエジンバラ美術大学と国際交流協定を締結し、これからの本格的な交流の礎を築くことができました。その他、ドイツのケルン音楽大学、タイのシルパコーン大学など海外の著名な芸術大学との大学間交流も進展しつつあります。

平成20年4月には、ヴォルフガング・ヤーン氏を迎えて『メンデルスゾーン・スペシャル2008』を開催しました。これは、メンデルスゾーンの研究という貫いたテーマに基づく教育研究を具体化する事業の第一弾として実施したものです。学生が第一線で活躍する講師の楽曲研究を学ぶとともに演奏指導を受けることができ、高い教育効果をあげることができました。

続いて、7月に作曲家の菅木真治氏が『Experimental Sound Expression』を展開しました。即興表現を中心にジョン・ケージ以降の現代音楽の展開をなぞる菅木氏のレクチャーとワークショップは、美術と音楽の両専攻を横断するコラボレイティブな芸術活動で、参加した学生を強く啓発する刺激をもたらしました。

11月にはトランペット奏者のウーヴェ・コムシケ氏をお招きし、学内やしらかわホールを舞台に演奏会や公開レッスンなど様々な活動を展開していただきました。

美術分野では、11月から12月にかけて、サイモン・カット氏とエリカ・ヴァン・ホーン氏によるワークショップ、アーティスト・トークと芸術資料館を使っの大規模な展示が行われました。

さらに、平成21年1月には韓国の梨花女子大学から現代美術作家のウ・スノック教授が滞在して、トークや公開制作をしていただきました。

平成21年5月には「ケルンの風」と題して、ケルン音楽大学から著名なチェリストであるクラウス・カンギーサー教授と若き演奏家たちを招いて、宗次ホールでのコンサートや、長久手町文化の家での公開レッスン、学内でのレクチャーなど、充実したプログラムを展開し、学外からも大好評を博しました。

また、同じく5月にフランスのソルボンヌ大学から電子音響音楽の作曲家、マーク・バティエ氏を招き「21世紀と電子音響音楽～パリから」と題してトークやレクチャーを実施しました。

多くの学生が、アーティスト・イン・レジデンスに参加することによって、新たな刺激を受け、視野を広げ、勇気をもって世界に羽ばたいていこうという意気込みをもてるようになってきています。

今後、海外の芸術大学との交流を着実に進展させることにより、愛知芸大に国際的な空気を注入し、本学の学生が将来、世界を舞台に活躍できるように支援体制を構築していきたいと考えています。

なお、そのほか、名古屋大学と愛知芸大の大学間連携の新しい試みとして、昨年11月に、作曲家、下山一二三氏を迎えて『From the Sound to the Sound』(名古屋大学大学院国際文化言語文化研究科と愛知芸大音楽学コースの連携事業)を開催しました。



声楽家を目指す若者のうち、現代の作品に積極的にかかわって  
こうとする人の割合は、現状において決して多いとはいえないでし  
ょう。「音やリズムが複雑」「記譜法が特殊で読譜が難しい」「声に負担  
がかかりそう」「とっつきにくい」等、現代の声楽作品に対するイメ  
ージはネガティブなものが多く挙げられるのではないかと思います。

しかしながら、百年以上前に生まれた作品群だけで、二十一世紀  
に生きる我々音楽家のレパートリーが構成されているというのは、  
他の芸術分野と比較するならば異常なことと見えるのではないで  
しょうか。現代に生きる我々が、同時代の作品に取り組みずして誰が  
取り組むというのでしょうか。

声楽を学ぼうとする学生たちにもぜひこういう意識を持ってもら  
い、個々に度合いの差こそあれ、同時代の作品にも積極的な関心  
を持ちまたそのための取り組みかたを伝えるのが、声楽教育における  
私の使命のひとつであると考えています。

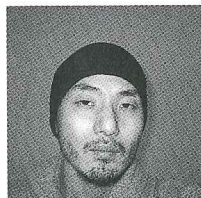
もちろん、どの時代のものに取り組むにも、基礎テクニックの重要  
さは変わりませんし、特に、通常のレパートリーとは異なったテクニ  
ックも合わせて要求される現代作品に取り組むためには、正しい発声  
と正しい発音・発語が土台として存在しなければならないのはいう  
までもありません。「どの時代のどの国の作品を演奏するにも基本と  
して通用する声」を学生たちが身につけていけるよう、出来る限り  
のお手伝いをしたいと考えています。



森川栄子  
声楽専攻准教授



百武由紀  
弦楽器コース教授



森北伸  
彫刻専攻准教授



桐山建志  
弦楽器コース准教授

「芸術家になりたい」そんな夢を見て愛知県立芸術大学に入学し  
たのが、ちょうど20年前になります。壮大な夢は終わりになき道のりで  
現在進行形でしょうが、時や場所が変わるにつれその中身が変容し  
ていきながらも無我夢中で作品を作ることは、あの頃の思いと何ら  
変わりなく感じます。また残りの自分の人生を40年と決め、今後の  
具体的な目標を密かに立てていますが目紛しく変わる時代の中で  
未来の状況は凡人には当然予測もつきませんし、叶わないことが出  
てくるのは当然あると愚直な僕でも予想出来ます。ただ「芸術家にな  
りたい」という原理主義だけは、やはり変わらないことでしょう。

そのため僕が今から深く関わろうとしている当大学には「芸術の  
場」ではなく「芸術が感じられる場」として存在し続けることを願っ  
ています。それらは解釈によって色々な意味に捉えられますが、僕が最  
低限譲れない立脚点なのかも知れません。

私は無力ですが皆さんと小さなコミュニティーを形成できること  
を運命と感じ、少々逃げ腰の中でこの世界を皆さんと楽しく育ん  
でいきたいと思っています。

人と人との出会いに“縁”や“運”があるように、人と学校の出会い  
にも“縁”があると思います。

今から8年前、非常勤講師として初めて県芸に来た4月、私と同じ  
ような不安げな新入生の顔が今でも脳裏に焼きついています。「遠  
い所に来てしまってきっと心細いに違いない」と勝手に思いました。  
長い間勤めたオーケストラを辞め、自分の足で歩き始めた第一歩が  
県芸でした。それから6年間、最初は心許なかった足元が、どんど  
ん固まって行くのを感じました。それは生徒達の真摯な姿に触れ責任  
を感じつつも、何とかこの生徒達に応えたいと本気で思えたからで  
しょう。気が付いたら私にとって県芸は、どの学校より距離は遠いの  
に、心が一番近い学校になっていました。本格的にこの学校に根を  
生やそうと決心したのは、この記憶があまりにも鮮烈だったからで  
しょう。緑に囲まれ、自然と共存している学校で「弦を擦り 弦を震  
わせ 木を響かせている」私達ですが、沼から来る“天敵”の湿気さ  
えなければ音楽を育むのに絶好の場所だと思います。どれだけ多く  
の作曲家が自然の中を散策しメロデーを湧かせた事でしょう。こ  
の学校で木々の葉が風にゆれているのを見る時、決して遠い時代、遠  
い国の事ではないと思えるのは私だけでしょうか。大学に集まって  
来る生徒達は、皆一人一人掛替えのない“種”を持って来ます。ここ  
に植えた“種”が育ち実を結ぶ為に、私の経験が少しでも役に立てれば  
と思うばかりです。

この大学には学生時代、学部一年の時と大学院一年の時に四芸  
祭で来たことがあります。その時の印象は、「敷地が広くて良いなあ」  
でした。その後、その頃は想像もしていなかった、曲が書かれた当時  
のスタイルの楽器を用いる古楽の世界にも足を踏み入れ、いつしか  
演奏活動は古楽器の方が多くなっていました。しかし自分にとって、  
古楽器を使うことが大切なのではなく、使う楽器は自分の音楽を表  
現するための一手段にすぎないと思っています。当時の楽器からは  
様々なことを学ぶことが出来ます。また、当時の演奏習慣などを知る  
こともとても大事なことです。でも、それらのことを生かしながら、  
『今』新しい音楽を、自分ならではの表現していくことの方が、もっと  
重要だと思っています。

偶然、自分の学生時代の同級生が何人か集まった、自然豊かなこ  
の地で、音楽、芸術の素晴らしさ、楽しさ、面白さを、学生とともに味  
わっていきたいと思います。

私の師匠に、ウィーンに長年住まい活躍した打楽器奏者がいる。

彼女は「ウィーン音大の打楽器部屋には、いつも他楽器の学生や、作曲や指揮の学生が入り浸って、打楽器の音や奏法について私の師匠に質問し、みなが議論した。」と話す。

私が愛知芸大で目指すものは、このような“打楽器部屋”である。これは実際に部屋を作るのではなく、他領域・他専攻の学生も柔軟に受け入れる姿勢で仕事をする、また打楽器の情報を積極的に発信する精神を貫くということである。

打楽器は誰がやっても音は簡単に出る。しかしその音色を自在にコントロールすることが芸術における打楽器の位置づけであり、単純な太鼓の一打でさえ奏者の強い主義主張が染み込んでいなければならない。そのためには多くの文化芸術に触れて感性を磨くという遠回りが必携である。

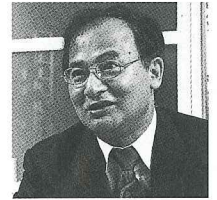
愛知芸大の豊かな研究環境において様々な情報の交差点、様々な表現手段とのあいや感性をぶつけ合うための場として“打楽器部屋”が育てば、打楽器の学生にとっても他の学生にとっても有益な場となると思う。

※「小合奏室」には膨大な量の打楽器が常時保管され試奏できる状態にあります。打楽器の生きた情報はここで得られますから、みなさん気軽にいらしてください。

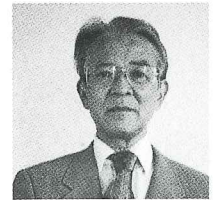
深町浩司  
管打楽器コース准教授



北川フラム  
彫刻専攻客員教授



森田恒之  
芸術学専攻客員教授



## 教員紹介

(平成20年度着任教員)

美術は自然と人間、文明と人間、社会と人間との距離を直感的、総合的に測る技術です。意識を造形化することは、殆どの場合、手と頭脳と手を始めとする諸器官の集中的総合的格闘技のようなもので、それは身体、生理の社会のなかでの緊張そのものを表しているのだ、と私は考えます。

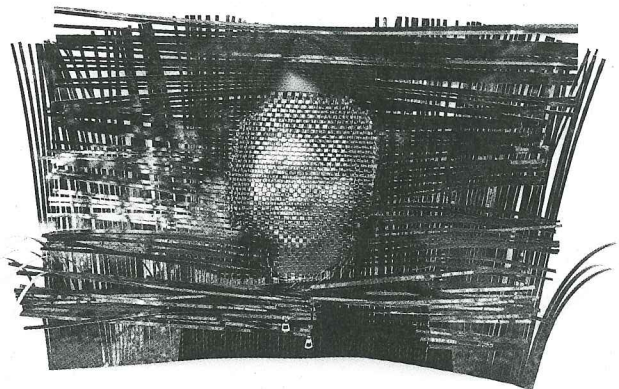
話が面倒になりました。別の言い方をすれば、地球環境が殆ど絶望的に悪化し、金融資本主義の戦争経済化が見通しをもてなくなり、人間個人の活動の自在さと豊かさがなくなり、管理的、均質的なロボットのような人間像が望まれている。いまそこにある奈落を転落するような危機にこそ、人間の活動(それは労働や仕事だけのものではない総てを含みますが)である美術のもつ役割が大切だと思うのです。

美術はいつの時代でも、人間が自然や社会や文明のなかから疎外され、危機に陥った時に頑張り、その素晴らしさを苦闘のなかに輝かせてきました。私は美術を志す人たちにこそ期待するのです。

半世紀ほど前、東京芸大で文化財の保存修理を専攻した第1号学生でした。20代後半に保存科学の世界へ転じ、それから40年以上を博物館駐在の科学研究者として過ごしました。絵具その他の画材の物性研究からはじまり、80年代以降は大阪の国立民族学博物館で道具や機械類までをも含むあらゆるものを如何に保存するかを考えてきました。昨年未までの3年間は中東のヨルダンで博物館の制度整備と学芸員養成をお手伝いしていました。久しぶりに美術の世界に帰ってきて少し戸惑っています。美術もモノづくりの世界、材料や技術を無視してはよい作品は生まれません。美しい作品を作るためには自分の感性をどのようにして物質におきかえたらよいかを皆さんと一緒に考えたいと思います。

油画専攻の客員教授・歌田真介先生とは学生時代以来のパートナーです。

## 学生・卒業生のコンクール等受賞者、入選者紹介



櫻井裕子

第16回プリント21グランプリ展2008 小品部門 グランプリ受賞  
 タイトル untitled  
 サイズ 190×270mm  
 技法 写真、手編み  
 制作年 2008.1

受賞できた事を大変嬉しく思っています。審査のコメントで「この作品が大好きです」と言って頂けた事、沢山のコメントを頂けた事が、本当に嬉しかったです。勇気づけられ、為になりました。  
 大学という場での経験が基盤としてあって、繋げる事ができました。このような場を頂けた事や、現在の状態を築く事ができた事、先生と友人に深く感謝しています。ありがとうございました。

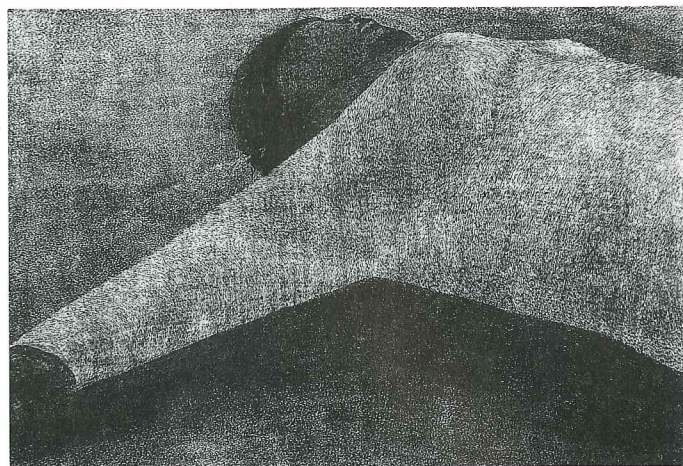
櫻井裕子 Sakurai Hiroko

2007 京都精華大学芸術学部 卒業  
 2007 愛知県立芸術大学大学院油画・版画領域 入学  
 現在 同校 大学院2年生在学中



(左) 櫻井裕子さん

(右) 遠藤美香さん



遠藤美香

棟方記念大賞展 大賞受賞  
 タイトル「眠り」  
 サイズ 縦64×91cm  
 技法・材料 水性木版／墨・楮紙  
 制作年 2007

川上澄生美術館木版画大賞展 準大賞受賞

タイトル「かたまり」  
 サイズ 62×91cm  
 技法・材料 水性木版／墨・楮紙  
 制作年 2008

棟方記念大賞、川上澄生美術館木版画大賞展準大賞を受賞したことは、棟方志功、川上澄生というすばらしい木版画家にゆかりのある賞で特別に嬉しく思います。全国の大学が参加する大学版画展での受賞はこれからの制作にとても励みになりました。  
 私は、板の間という研究室で制作をしています。床に腰をおろして作業ができる板の間は、水性木版の制作に集中できる場所です。  
 これからも制作を頑張ります。

遠藤美香 Endou Mika

1984 静岡県生まれ  
 2007 日本大学芸術学部 卒業  
 2007 愛知県立芸術大学大学院美術研究科美術専攻 入学  
 現在 同校 油画・版画領域在籍

成本 理香 (作曲:1994年大学院修了) 2008年 第29回入野賞(室内オーケストラ部門)

今井 智景 (作曲:2002年卒業) 2007年 第28回入野賞佳作賞(室内楽部門)

水野 みか子 (作曲:1991年大学院修了) 2004年 日本音楽集団創立40周年記念作曲コンクール ファイナリスト

辻井 亜季穂 (声楽・ソプラノ:大学院1年在学中) 2008年 第5回長久手国際オペラコンクール(長久手町主催) 特別賞

水野 秀樹 (声楽・バリトン:学部4年在学中) 2008年 第39回 イタリア声楽コンクール ミラノ部門「イタリア大使杯」

大川 昌也 (声楽・テノール:学部4年在学中) 2008年 第15回全国ジュニアクラシック音楽コンクール(東京国際芸術家協会主催) 審査員賞

福代 まり奈 (声楽・ソプラノ:大学院2年在学中) 第11回「万里の長城杯」国際音楽コンクール声楽部門大学の部第3位(1位なし)

長谷川 彰子 (チェロ:2008年卒業) 2008年 日本音楽コンクール チェロ部門 第3位

稲垣 路子 (トランペット:2003年卒業) 第25回日本管打楽器コンクールトランペット部門第一位

神谷 絃美 (マリンバ:2007年卒業) 第25回日本管打楽器コンクール打楽器部門入賞

# 安元弘行先生の思い出

教員  
Pick up

芸術祭期間中の11月2日晴天下、安元教授がオーナーをつとめるフリーマーケット「時代屋安」にてお話を伺った。

Q.ここは研究室ではなく大変失礼なのですが、まずこの「時代屋安」について説明をお願いいたします

本当に失礼だね(笑)だけこのお店を出すことは実は私の研究と無関係ではないのです。毎年芸術祭期間中、数名の学生たちと共にお客さんの対応をし、店が暇な時間は学生と雑談をする。これは「アソビ」と私が呼んでいる大切な実践なのです。いつなん時でも専門分野だけに時間を費やせばテクニックの上達は早いですが、時々マンネリ化したり拒絶反応が起きたりします。だからこうやってお店をやってお客さんと値段交渉したり、変わったところでは学生を連れて牧場に行き牛の前でチューバを吹いたこともある(笑)こういう遠隔からの体験から得られるものは、その人の視野や見聞を広げ人間の幅を広げることになる。研究室だけが研究の場でないということなのです。

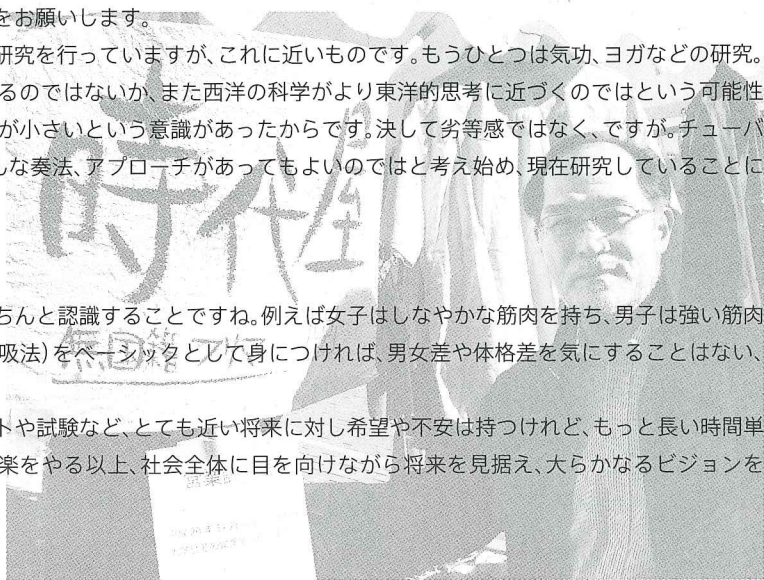
Q.先生の研究分野「管楽器演奏法の科学的生理学的分析」についてご説明をお願いします。

アメリカでは医者と音楽家がタイアップして呼吸法などの病理学的研究を行っていますが、これに近いものです。もうひとつは気功、ヨガなどの研究。この東洋伝統の呼吸法や治療法がいずれ西洋の科学的なものと同流するのではないかと、また西洋の科学がより東洋的思考に近づくのではという可能性を感じています。こう考えるきっかけは、私はチューバ吹きとしては体が小さいという意識があったからです。決して劣等感ではなく、ですが、チューバは太くて重くて大きくて…というイメージだけではなくもっといろんな奏法、アプローチがあってもよいのではと考え始め、現在研究していることにつながりました。

Q.学生たちと、音楽を楽しむ子供たちにアドバイスをお願いします。

性別によって、体格によって筋肉構造はひとそれぞれ。まず自分をきちんと認識することですね。例えば女子はしなやかな筋肉を持ち、男子は強い筋肉はあるがしなやかさが少ない。こういった個々の違いに合わせた奏法(呼吸法)をベーシックとして身につければ、男女差や体格差を気にすることはない、むしろそれを個性であると考えていてほしいのです。

それから、若い人たちは例えば明日の演奏のこと、すぐ先のコンサートや試験など、とても近い将来に対し希望や不安は持つけれど、もっと長い時間単位で物事を考える実践をしてほしい。社会情勢や経済と密接である音楽をやる以上、社会全体に目を向けながら将来を見据え、大らかなビジョンを持って生きて行ってほしいと願います。



## 2008大学日誌

- 4月
- 入学式・ガイダンス ●法隆寺金堂壁画模写展示館春季展(～5月)
- 5月
- 収蔵資料展2008 ●四芸術大学体育・文化交歓会(金沢) ●アーティスト・イン・レジデンス/ウォルフガング・ヤーン氏「メンデルスゾーン・スペシャル2008」
- 6月
- オーケストラ春季特別演奏会
- 7月
- 「愛芸アシスト」設立総会・第1回理事会 ●公開講座(芸術学専攻) ●「サテライト」講座開始 ●オープン・キャンパス
- アーティスト・イン・レジデンス「新しい表現の追求 菅木真治のザ・オーケストラ」
- 8月
- 片岡球子を偲ぶ展
- 9月
- オーケストラ・ポピュラー・クラシック・コンサート ●法隆寺金堂壁画模写展示館秋季展(～11月)
- 10月
- ウィンドオーケストラ第9回定期演奏会 ●第41回定期演奏会 ●韓国・国立昌原大学校イドクサン芸術大学長来訪―国際交流連携協議 ●第34回美術学部教員展
- 11月
- デュッセルドルフ美術大学国際交流ドローイング展 ●公開講座(日本画専攻) ●オーケストラ秋季特別演奏会 ●愛知県立芸術大学管弦楽団第19回定期演奏会
- イギリス・エディンバラ美術大学イアン・ハワード学長来訪―学術国際交流協定締結協議 ●アーティスト・イン・レジデンス/ウーヴェ・コミシュケ氏「ドイツロマン派の息吹」
- CORACLE アーティスト・ブック展
- 12月
- 弦楽合奏第3回定期演奏会
- 1月
- 卒業・修了制作優秀作品展/研修生作品展
- 2月
- エジンバラ美術大学国際交流協定調印 ●Low Brass Family 安元学部長退官記念コンサート
- 3月
- 平成20年度卒業・修了制作展 ●芸術資料館高松塚古墳壁画模写作品展 ●第40回卒業演奏会 ●法隆寺金堂壁画模写展示館春季展

# 愛知県立芸術大学 平成21年度後半の演奏会・展覧会情報

## 主な演奏会スケジュール

月	日	演奏会・展示名称	開催場所	摘要
9	13(日)	ポピュラークラシックコンサート	尾張旭市文化会館 大ホール	指揮: 外山雄三 / 管弦楽: 愛知県立芸術大学管弦楽団
	27(日)	室内楽の楽しみ	長久手町文化の家 森のホール	オーディションで選考された出演者による、多様な編成による室内楽の演奏会
10	4(日)	メンデルスゾーン・スペシャル2009 [愛芸アシスト支援事業] 愛芸大弦楽アンサンブル特別演奏会 with G.ボッセ	愛知県芸術劇場 コンサートホール	指揮: ゲルハルト・ボッセ / 出演: 愛知県立芸術大学声楽専攻教員及び学生 / 管弦楽: 愛芸大弦楽アンサンブル及び管打楽器コース学生
	13(火) 14(水)	音楽学部第42回定期演奏会第1夜 / 第2夜	愛知県芸術劇場 コンサートホール	愛知県立芸術大学音楽学部の学生と教員が共演する演奏会
11	11(水)	愛知県立芸術大学ウィンドオーケストラ 第10回定期演奏会	三井住友海上しらかわホール	愛知県立芸術大学ウィンドオーケストラによる定期演奏会
	23(月・祝)	愛知県立芸術大学管弦楽団秋季特別演奏会	日進市民会館	指揮: 外山雄三 / 管弦楽: 愛知県立芸術大学管弦楽団
	24(火)	愛知県立芸術大学管弦楽団第20回定期演奏会	愛知県芸術劇場 コンサートホール	指揮: 外山雄三 / 管弦楽: 愛知県立芸術大学管弦楽団
12	5(土) 6(日)	大学院オペラ コジ・ファン・トゥッテ [愛芸アシスト支援事業]	長久手町文化の家 森のホール	出演: 愛知県立芸術大学大学院音楽研究科声楽専攻学生ほか / 管弦楽: 愛知県立芸術大学管弦楽団
	8(火)	愛知県立芸術大学音楽研究科博士リサイタル(仮称)	奏楽堂	本学博士後期課程に在籍する学生の研究発表演奏会
	13(日)	大学院オペラ コジ・ファン・トゥッテ [愛芸アシスト支援事業]	大府市勤労文化会館	出演: 愛知県立芸術大学大学院音楽研究科声楽専攻学生ほか / 管弦楽: 愛知県立芸術大学管弦楽団
	16(水)	ピアノ名曲の夕べ	中村文化小劇場	名古屋市文化振興事業団中村文化小劇場と本学音楽学部ピアノコースが主催する演奏会
	16(水)	金管室内楽の夕べ	熱田文化小劇場	愛知県立芸術大学音楽学部管打楽器コースの定期演奏会
	17(木)	第4回弦楽合奏定期演奏会	三井住友海上しらかわホール	愛知県立芸術大学音楽学部弦楽器コースの弦楽合奏研究会による定期演奏会
2	20(土)	打のとき	長久手町文化の家 森のホール	愛知県立芸術大学音楽学部打楽器コースの定期演奏会
	23(火)	新進演奏家コンサート・ピアノ名曲の夕べ	天白文化小劇場	名古屋市文化振興事業団天白文化小劇場と本学音楽学部ピアノコースが主催する演奏会
	27(土)	室内楽の夕べ	宗次ホール	愛知県立芸術大学音楽学部弦楽器コースの学生が出演する室内楽演奏会
3	17(水) 18(木)	愛知県立芸術大学大学院修士によるコンサート	宗次ホール	平成21年度の愛知県立芸術大学大学院修士生から出演者を選抜。 これからの活躍が期待される若い演奏家のコンサート
	24(水)	音楽学部第41回卒業演奏会	愛知県芸術劇場 コンサートホール	平成21年度の卒業予定者より選抜された学生が出演する演奏会

## 法隆寺金堂壁画模写展示館 展覧会スケジュール

9	16(水)~30(水)	法隆寺金堂壁画模写秋季展	法隆寺金堂壁画模写展示館	特別陳列—法華寺所蔵阿彌陀三尊及び童子像模写
10	16(金)~ 11/1(日)	法隆寺金堂壁画模写秋季展	法隆寺金堂壁画模写展示館	特別陳列—神護寺所蔵肖像画像模写と釈迦金棺現図模写
11	17(火)~29(日)	法隆寺金堂壁画模写秋季展	法隆寺金堂壁画模写展示館	特別陳列—神護寺所蔵釈迦如来像模写等
3	16(火)~31(水)	法隆寺金堂壁画模写春季展	法隆寺金堂壁画模写展示館	特別陳列—高松塚古墳壁画模写

## 芸術資料館 展覧会スケジュール

9	29(火)~ 10/6(火)	大学院油画・版画領域1年研究発表展	愛芸大芸術資料館	大学院油画・版画領域1年に在籍する学生の作品展
10	13(火)~25(日)	第35回美術学部教員展	愛芸大芸術資料館	美術学部教員による作品展
	30(金)~ 11/1(日)	芸術祭学内公募作品展(パルケ)	愛芸大芸術資料館	芸術祭実行委員会企画の学生公募作品展
11	5(木)~12(木)	研究生作品展 / 研修生作品展	愛芸大芸術資料館	美術学部各専攻に在籍する研究生及び研修生(留学生含む)の作品展
	20(金)~27(金)	大学院彫刻領域研究発表展	愛芸大芸術資料館	大学院彫刻領域に在籍する学生の作品展
12	4(金)~11(金)	陶磁専攻作品展	愛芸大芸術資料館	陶磁専攻に在籍する学生の作品展
	16(水)~24(木)	"Season writes...AICHI" ヤナウィット・クンチャエトーン作品展	愛芸大芸術資料館	アーティストインレジデンス事業。タイの作家作品を展示
1	8(金)~15(金)	デザイン専攻企画展	愛芸大芸術資料館	デザイン専攻学生の企画による作品展
	21(木)~27(水)	卒業・修士制作優秀作品展 / 博士後期課程生作品展	愛芸大芸術資料館	平成20年度卒業・修士制作の優秀作品賞受賞作品展及び博士後期課程に在籍する学生の作品展
2	23(火)~28(日)	平成21年度愛知県立芸術大学卒業・修士制作展	愛知県美術館 愛芸大芸術資料館	平成21年度卒業・修士制作の展示